

http://www

知求会 EU 支部ニュースレター

Newsreel Word

2013年 12月 15日
第8号

EU 支部委員長: 松原真実子 MAMIKO. MATSUBARA

青森県八戸市出身 国際文化専攻修了 修士論文『異文化間コミュニケーションの研究—フィードバック作用—』

e-mail: leoshironeko@yahoo.co.jp



この号の内容

- 1 イタリア 高失業率
若い求職者の現状
- 2 EU 支部だより
—世界の若者の7~8人に
1人は職がない現実—

- ・若者、雇用市場でのんびり
- ・移民の採用
- ・ハングリーさがない若者
- ・若年失業率 39.1%

イタリア 高失業率 若い求職者の現状

【9月1日 AFP=時事】若者が雇用市場でのんびり構え過ぎているというイタリアの会社経営者の発言をきっかけに、若者の失業率が記録的な高水準にありながら企業では何千人もの欠員が出ているという同国の現状について激しい議論が起きている。

プラスチック製品メーカーを営むジョバンニ・パゴット氏は、採用が移民ばかりになっている現状を明らかにした上で、振り出しが一介の工場労働者だった自身と比べ、求人に応募してくるイタリア人の若者が今ひとつ「ハングリー」ではないとコメント。ベネチア近郊出身の同氏は、応募者から運転免許試験を受けるので入社を3カ月延期してほしいと要請されたことや、心の支えを得たいとして母親同伴で面接に来た応募者がいたことを明らかにした。

パゴット氏の発言は、労働組合の指導者から就職活動がうまくいかないという若者まで多くの人たちから反発を受けた。ただ一部の専門家は、核心を突いた発言かも知れないと指摘している。

イタリアの失業率は全体で12%をやや上回る程度だが、学生を除く15歳から24歳までの若年層では39.1%と大幅に高い。その一方、ピザ調理師やエンジニア、職人や営業要員といった一部の職種では、求人応募者が十分集まらず欠員を補充できない、と不満の声が上がっている。

社会経済分野のシンクタンク、ノルド・エスト基金のダニエレ・マリーニ氏は「若い世代が将来の仕事について極度に高望みしているのは事実だ」と言う一方で、一般化するべきではないと述べ、企業は見習や職業訓練の機会を十分に提供していないし、教育制度も若者に就職の準備をさせることに失敗していると指摘した。

EU支部だより —世界の若者の7~8人に一人は職がない現実—

インターナショナル・ユース基金によると、世界の若者の失業率は12.7%で、世界の全世代の失業率約6%の2倍強となっている。世界の若者人口は史上最大の12億人。そのうち7~8人に1人が無職である。若者の失業率の高さの原因の一つに、教育機会の不平等が挙げられるが、ラテンアメリカや中東欧では、教育の不備、アジアでは低い賃金が不平等を招いていると思われる。欧米では、社会制度よりも、若者の内面に原因があるようだ。イタリア、スペイン、ドイツ、フランス、カナダ、ポルトガル、アメリカ、ギリシャ、イギリス、以上10カ国の15~24歳のNEET（職・教育・訓練に従事していない人）の割合は11%に上る。社会やコミュニティから切り離され、孤立し、NEETの期間が長くなるにつれて、犯罪の被害者や加害者になるリスクも高くなるとともに、2度と職につけない可能性も高くなる。欧州では昨年からの財政危機を受けて若者の高い失業率のため増大する財政負担への懸念が大きい。日本も同様に2000年以降、就職事情が大きく変化した。「フリーター」や「ニート」が増え、非正規雇用制度が生まれ、終身雇用制は崩壊した。それでも世界の先進国と比べ失業率が低いのは、未だ終身雇用の意識が残っているのかもしれない。ウィリアム・リース氏は「若者が繁栄するとき、社会が栄えることは歴史が証明している」と述べ「いま、若者が職を得られるよう行動しなければならない。私達の未来は、それができるか否かにかかっている」と指摘している。私も大学生の就職支援を通じ、人の人生に関わる重要な役割を担う者として、若者と職、そして、教育をめぐる問題の解決を求め、常に自己研鑽を怠らず、最善をつくしていきたい。（松原）



- ・世界の若者失業率
12.7%
- ・教育機会の不平等
- ・教育の不備
- ・低賃金
- ・若者の内面にも原因が